

令和4年度全国学力・学習状況調査結果【中学校】について

境港市教育委員会事務局

本年4月19日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全国・県の結果と合わせまして本市の状況をお知らせします。

ただし、本調査により測定できる学力は一部であり、総合的な学力を表すものではありません。学習状況調査を含めた分析の結果が、子どもたちのよりよい学びをめざす指針になればと考えております。



教科の調査から 国語・数学・理科

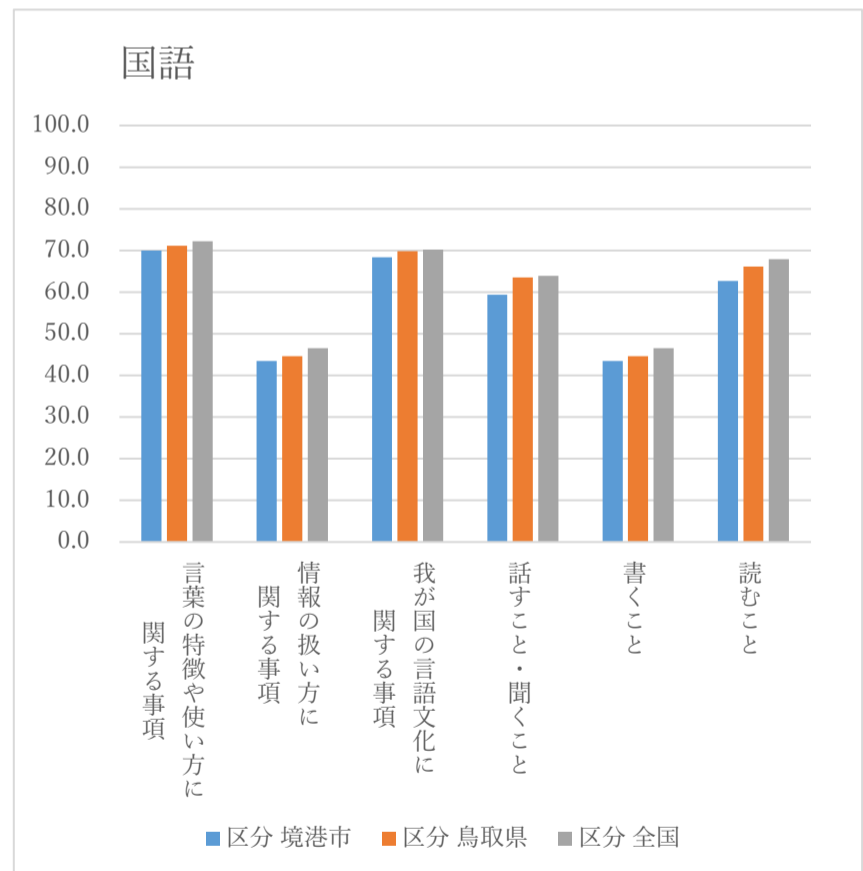
国語

【評価について】 A:全国平均との差が+3%を超える B:全国平均と同等から+3%まで
C:全国平均との差が-3%まで D:全国平均との差が-3%を下回る
※ 表およびグラフの数値は、すべて「平均正答率(%)」を表しています。

	境港市	県	全国	R4全国差	R4評価	R3全国差	R3評価
全体	66	68	69.0	-3.0	C	-3.6	D
言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	71.1	72.2	-2.2	C		
情報の扱い方に関する事項	43.5	44.6	46.5	-3.0	C	-4.3	D
我が国の言語文化に関する事項	68.4	69.8	70.2	-1.8	C		
話すこと・聞くこと	59.4	63.5	63.9	-4.5	D	-2.4	C
書くこと	43.5	44.6	46.5	-3.0	C	-2.4	C
読むこと	62.7	66.1	67.9	-5.2	D	-4.2	D

＜国語＞【成果・課題となる内容】

- ・領域「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が令和3年度より上がり、改善傾向が見られます。文脈に即して漢字を正しく書くこと（除く：全国比+5.7）や「行書の特徴を理解すること」（全国比+1.5）や「漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること」（全国比+1.5）については全国平均を上回っております。
- ・領域「読むこと」（全国比-5.2）については、令和3年度に引き続き課題が見られます。場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉えること（全国比-5.9）については、全国平均を下回っております。文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが大切です。その際、細部の描写に着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが有効です。
- ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること（全国比-8.5）に課題があります。漢字の行書とそれに調和した仮名を書くためには、筆脈を意識して、行書の特徴に調和する仮名の書き方を理解して書くことが大切です。その際、楷書に調和する平仮名の書き方を踏まえ、一層筆脈を意識して書くようにすることが重要であり、行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解できるように、毛筆を活用することが有効です。



【生徒質問紙とのクロス集計より】

- ・「読書は好きですか」「新聞を読んでいますか」という質問に肯定的に回答している生徒や「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問に「1時間以上2時間より少ない」と回答した生徒の平均正答率が高くなっています。また、「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」という質問に20冊以上と回答した生徒の平均正答率が高くなっております。

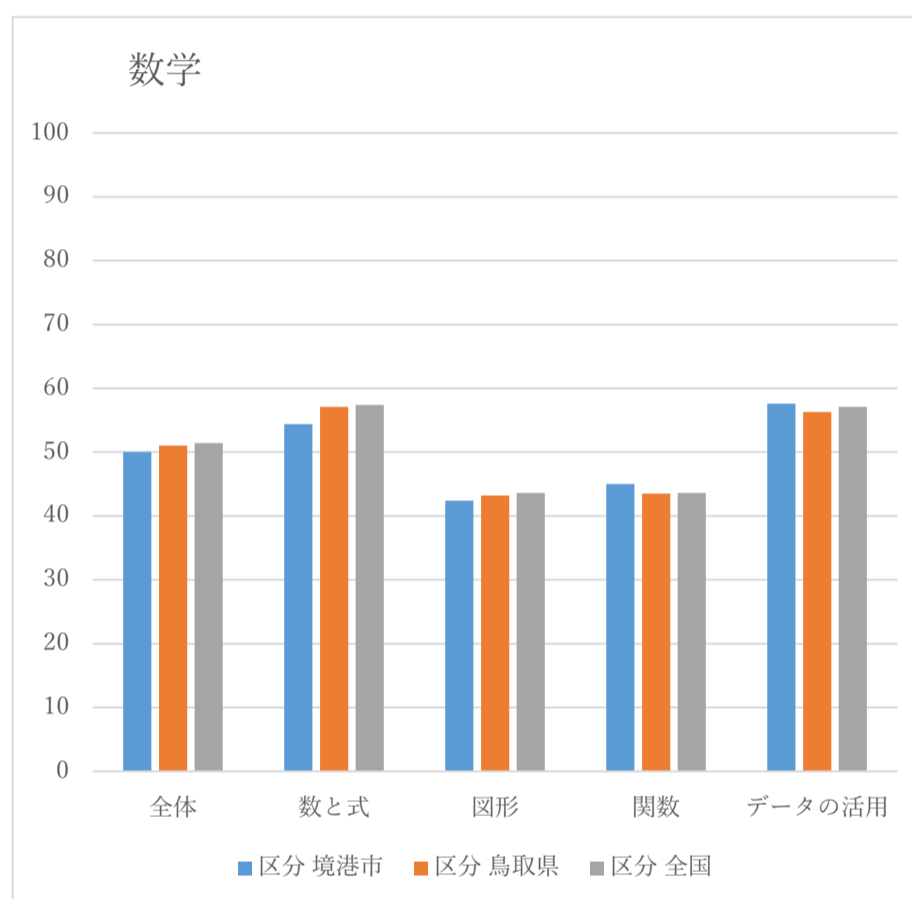
数学

【評価について】 A:全国平均との差が+3%を超える B:全国平均と同等から+3%まで
 C:全国平均との差が-3%まで D:全国平均との差が-3%を下回る
 ※ 表およびグラフの数値は、すべて「平均正答率(%)」を表しています。

	境港市	県	全国	R4全国差	R4評価	R3全国差	R3評価
全体	50	51	51.4	-1.4	C	-2.2	C
数と式	54.4	57.1	57.4	-3.0	C	-5.5	D
図形	42.4	43.2	43.6	-1.2	C	-3.1	D
関数	45.0	43.5	43.6	1.4	B	1.4	B
データの活用	57.6	56.3	57.1	0.5	B	1.7	B

<数学>【成果・課題となる内容】

- ・領域「数と式」と「図形」については、令和3年度より全国平均との差が縮まり改善傾向が見られます。
- ・箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶこと(全国比+7.6)については、全国平均を大きく上回り良好な状況です。
- ・ヒストグラムよりデータの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること(全国比-6.6)に課題が見られます。この問題では、データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することが求められています。問題場面について、図1、図2の二つのヒストグラムの特徴を比較して、それぞれの分布の様子を読み取った上で、コマを選ぶ根拠を、最大値、最小値、範囲、累積度数などといった指標を用いて記述できるようにすることが大切です。



- ・同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような偶数の和を表しているかを例に習って記述する問題(全国比-4.1)の正答率が低かったです。文字を用いた式と具体的な数を用いた式とを相互に関連付けながら、文字を用いた式がどのような事柄を表しているのか理解できていないことが伺えます。問題の説明1を振り返り、文字を用いた式「 $2n + 2n = 4n$ 」に、 $n = 9$ を代入した式「 $2 \times 9 + 2 \times 9 = 4 \times 9$ 」や、「 $18 + 18 = 36$ 」と対比させて考えることで、 $2n + 2n$ が同じ2つの偶数の和を表していることや、 $4n$ が4の倍数になることを確認することが大切です。

【生徒質問紙とのクロス集計より】

- ・「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」という質問に「1時間より少ない」と回答している生徒の平均正答率が高くなっており、また、「普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」という質問に「30分以上、1時間より少ない」と回答している生徒の平均正答率が高くなっており、
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」、「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という質問に肯定的に回答している生徒の平均正答率が高くなっています。

【一人一台端末の活用】

境港市では、児童・生徒用の一人一台端末に、一人一人が自分のペースに合った学習をすることができるように「eライブラリー for まなびポケット」を導入しております。自分が得意な学習については、さらにレベルの高い問題にチャレンジしたり、苦手な学習については、繰り返し問題にチャレンジしたり、関連する過去の学年の問題にかえて学習したりすることができます。学習時間の活用はもとより、放課後や家庭等での学習についても有効活用してください。

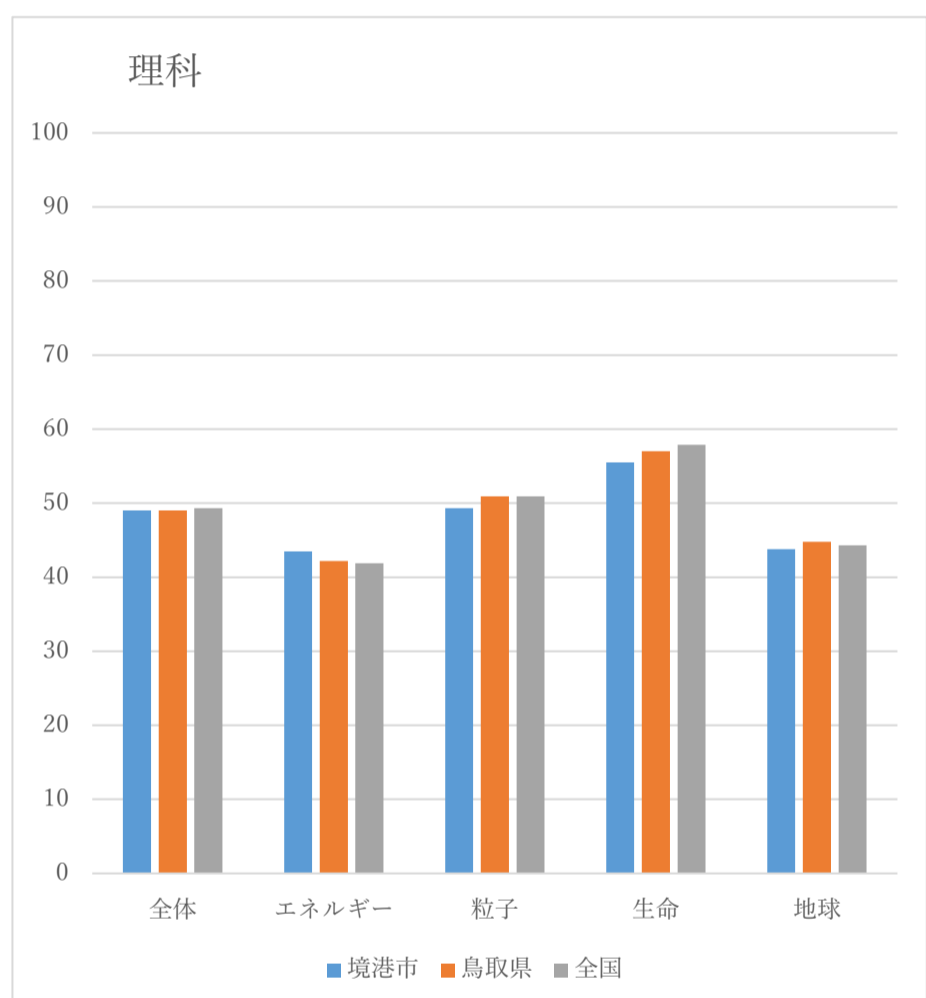
理科

【評価について】 A:全国平均との差が+3%を超える B:全国平均と同等から+3%まで
C:全国平均との差が-3%まで D:全国平均との差が-3%を下回る
※ 表およびグラフの数値は、すべて「平均正答率(%)」を表しています。

	境港市	県	全国	R4全国差	R4評価	H30 全国差	H30 評価
全体	49	49	49.3	-0.3	C	-1.1	C
「エネルギー」を柱とする領域	43.5	42.2	41.9	1.6	B	-1.7	C
「粒子」を柱とする領域	49.3	50.9	50.9	-1.6	C	-1.7	C
「生命」を柱とする領域	55.5	57.0	57.9	-2.4	C	-0.4	C
「地球」を柱とする領域	43.8	44.8	44.3	-0.5	C	-1.3	C

<理科>【成果・課題となる内容】

- ・「エネルギー」を柱とする領域は、全国平均を上回り（全国比+1.6）良好な状況です。特に日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する問題（全国比+5.2）と「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する問題（全国比+5.2）については、平均正答率が全国平均を大きく上回り、良好な状況です。
- ・アリの行列の作り方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うこと（全国比-5.8）に課題が見られます。観察、実験の結果を分析して解釈する上で、明らかにしようとしていることは何かを意識して考察することが大切です。アリの行列の作り方に問題を見いだして設定した課題と考察が正対しているか、自分の考えの根拠は明確かなどの検討をすることが重要です。その際、具体例を示しながら根拠をもとに考察を繰り返すことで、課題に正対した考察を行うことができるようになりますと考えられます。
- ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すこと（全国比-5.4）に課題が見られます。身近な現象を科学的に探究する上で、原子や分子のモデルをもとに、身近に見られる化学変化を化学反応式で表すことは大切です。身近に見られる化学変化を原子や分子のモデルで微視的に現象を捉えることで、化学変化に関係する原子や分子の種類や数に関することを可視化でき、より深い理解につながると考えられます。



【生徒質問紙とのクロス集計より】

- ・「1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」、「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に肯定的に回答している生徒の平均正答率が高くなっています。
- ・「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」という質問に肯定的に回答している生徒の平均正答率が高くなっています。
- ・「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」という質問に 201 冊以上と回答した生徒の平均正答率が高くなっています。

生徒質問紙調査から ～学習習慣や生活習慣などに関する質問～



【全国より上回っている『満足いく』結果のもの(肯定的な回答の全国比較)】

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている (全国比+7.0%)
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている (全国比+3.6%)
- 将来の夢や目標を持っている (全国比+1.9%)
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している (全国比+3.8%)
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
・1時間以上読書をしていると答えた生徒 (全国比+2.8%)
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う (全国比+5.8%)
- 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある (全国比+4.9%)
- 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある (全国比+3.8%)



【全国より下回る等、課題がある結果のもの】

- △総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる (全国比-4.2%)
- △道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる (全国比-2.4%)
- △国語の勉強は好きだ (全国比-5.6%)
- △国語の勉強は大切だ (全国比-15.4%)
- △国語の授業の内容はよく分かる (全国比-9.0%)
- △理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している (全国比-4.2%)
- △学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
・2時間以上勉強していると答えた生徒 (全国比-10.7%)



< 成果 >

- 「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている、または起きている」の問いに肯定的に回答した生徒の割合は全国に比べ高い結果となっています。学校、家庭、そして地域が連携しながら生徒の生活リズムの改善に努めている成果です。これからも「早寝、早起き、朝ごはん」等の基本的な生活習慣を継続しましょう。
- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と答えた生徒の割合は、全国に比べて高い結果となっています。これからも失敗の中から学ぼうとする気持ちを持ち、自分の可能性を伸ばしていきましょう。
- 地域の人との関わりを大切に生活している生徒の割合が高いです。いろいろな方々との出会いの中で、自分自身の成長につなげていこうとする姿勢が伺えます。



< 課題 >

- △国語に苦手意識のある生徒の割合が多いです。他者とのコミュニケーションを大切にしながら、自分の考えや気持ちを表現する機会を大切にしましょう。
- △自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動において、苦手意識のある生徒が多いことが伺えます。たくさんの情報を整理し、自分の考えを人に伝えるといった言語活動に積極的に取り組んでいきましょう。